

約束 2 テクニック1

文字は、ていねいに書いて書く！

1年生

ノートは、読む人を考えて書く！

本屋さんで売られている小説や図鑑を読む人がいるように、キミが書いたノートにも、かならず読む人がいます。テスト前のキミだったり、授業で教えたことがちゃんと理解できているかを確認してくれる先生であつたり。

だから、ノートは読む人のことを考えて、見やすい字で書くことが大切です。「字が汚いからムリ」なんて言わないでください。東大生だってみんな字がきれいだったわけではありません。きれいでなくても、見直したときに自分が読める字で、できるかぎり、ていねいに書いていました。

けい線やえんぴつ選びも大切

文字をていねいに書くためには、えんぴつの持ち方が大事です。左ページの上の図のように、親指、人差し指、中指の3本の指でしっかりとえんぴつを持つことで、文字の「はね」「はらい」「とめ」をきちんと書くことができます。また、芯の折れづらぬいBや2Bのえんぴつだと、より力強くていねいに書けますよ。

そして、けい線に合わせて書いてください。字がはみ出てしまうなど、書きづらいと感じたら、けい線の種類を変えてみてくださいね。ていねいな字を書くためには、えんぴつやノートのけい線など、自分に合った道具選びも大切です。

田 おうちの方へ

書く文字のくせに合わせてノートのけい線を選び、文字をていねいに書くためには、ノートのけい線選びが大切です。低学年のうちには、字の「はね」「はらい」「とめ」に気をつけながら、けい線に合わせて書く練習をする時期です。その際には、マス目に十字リーダーの入ったけい線だと、文字の中心を捉えながら書くことができます。お子さまが書くことに慣れるにしたり、十字リーダーのないマス目にした場合、マス目を小さくしたりと、ステップアップしてください。お子さまの書く文字の大きさやくせに合わせてけい線を選ぶといいでしょう。おうちの方から見ても、汚い字でもかまいません。まずは本人が読める字で、ていねいに書くように声をかけてあげてください。

えんぴつをしっかりと持って書く

親指

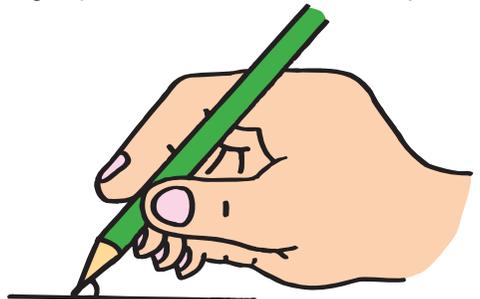
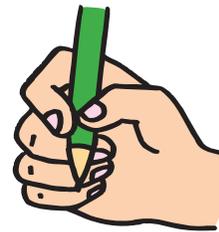
人差し指よりも少しうしろでえんぴつをはさむよ。

人差し指

えんぴつに進む方向を教えるよ。

中指

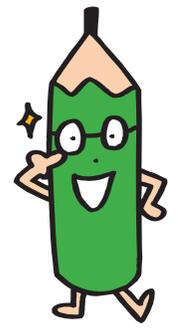
第一関節を軽く曲げて、その上へえんぴつを置く。えんぴつをささえる役目をするよ。



55°~60°

えんぴつは、親指、人差し指、中指の3本の指をふんわり曲げて持つよ

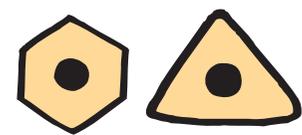
きれいな字を書くためには、えんぴつの持ち方がとても大切！



芯の濃い三角えんぴつがおすすめ！

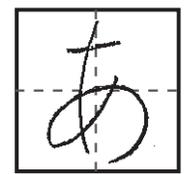
えんぴつの軸が三角の形をしている「三角えんぴつ」がおすすすめ。これだと、親指、人差し指、中指の3本の指でしっかりと持てます。

また、芯は濃いほうが、手の力があまりない小学生でも力強い文字が書けます。

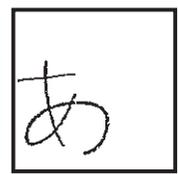


高学年からは字に合ったけい線を選ぶ

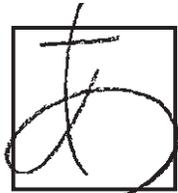
	マス目のまん中に書けない
	字がはみ出してしまふ
	字の大きさに合ったマス目にしよう
	よこのけい線を使ってみよう
	たて長の字になつてしまふ
	よこのけい線を使ってみよう



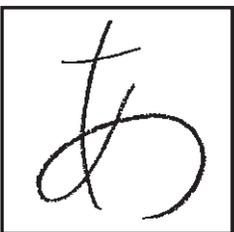
十字リーダー入りマス目を使う



マス目のまん中に書けない



字の大きさに合ったマス目にしよう



よこのけい線を使ってみよう

